

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870102120		
法人名	医療法人 たくま会		
事業所名	グループホーム セト		
所在地	松山市余戸南2丁目19-33 (電話) 089-965-0001		
管理者	黒田 ひとみ		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 9 月 8 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 15 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 22 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 19 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	22.5 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,150 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 15 日事業所記入)

利用者人数	26 名	男性	5 名	女性	21 名
要介護 1		名	要介護 2	6 名	
要介護 3	8 名		要介護 4	9 名	
要介護 5	3 名		要支援 2	名	
年齢	平均 84.5 歳	最低 69 歳	最高	99 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋2階建てと平屋建てを合わせた3ユニットのホームで、地域住民が気軽に立ち寄れる家庭的な雰囲気がある。管理者及び職員は理念と基本方針に基づいて利用者の日々の暮らしを支えており、利用者の穏やかな表情や生活リズムからもそのことがうかがえる。看護師の資格を持つ職員が多く、また、母体である医療機関との連携が密に図られており、終末期のケアにも対応している。また、自治会に加入しており地域との交流も深く、地域の中に根付いているホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

外部評価の結果は職員に報告し、改善計画を立ててサービスの向上に取り組んでいる。介護計画についてはチェック表を作り、毎月見直しを行っている。理念については会議等で十分に話し合い、共有を深めている。外出の支援については利用者個別のニーズに合わせて支援するよう心がけている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者及び職員は評価の意義を十分理解しており、自己評価についてはユニット毎に職員全員で取り組み、意見を出し合いまとめている。自己評価を行うことで現在のケアについても気づきがあり、それをサービスの質の向上につなげることができている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は利用者及び家族、地域住民、地域包括支援センター職員、市担当者などの出席を得て開催している。日時等は可能な限り出席者の希望に合わせて多くの出席が得られるよう配慮している。会議内容は、ホーム側が研修会や行事、外部評価、避難訓練の報告等を行い、地域からは地域の情報を提供していただくなどして、相互の報告や意見交換を行っている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の来訪時や運営推進会議、家族会等で意見を聞くよう心がけている。また、重要事項説明書等にホーム及び公的な苦情申立先を明記することで、家族からの苦情や意見が出やすい環境を整えている。家族から寄せられた意見はカンファレンス等で職員全員で共有し、適切な対応ができるよう心がけている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

ホームは自治会に加入し、自治会の役員会にも出席している。ホームの利用者が運動会、盆踊り、夏祭り等地域の行事に参加し、地域住民がほたるの鑑賞会等のホーム行事に参加するという双方向の良好な関係を築いている。また、利用者の友人の来訪、職場体験や実習生、ボランティアの受け入れも行うことで、地域との連携を図っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームせと

(ユニット名)

さくら

記入者(管理者)

氏名

黒田 ひとみ

評価完了日

平成 20 年 7 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「明るく・楽しく・穏やかに」という理念が家庭的な環境でサービスが受けられ、地域住民との交流の機会をより多く設けられるように取り組んでいる。特に自治会の役員会には職員が参加し、「運営推進会議」で入居者の状況や具体的な運営内容を説明している。 (外部評価) 「明るく 楽しく 穏やかに」という理念は、職員で話し合ってつくったホーム独自の理念で、地域密着を基本方針として運営に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 各ユニットの目標を設定する際、「明るく・楽しく・穏やかに」の理念を具体化できる目標設定に心がけている。 (外部評価) 理念は基本方針と共に各ユニットに明示し、誰でも見ることができるようになっている。管理者及び職員は会議等で理念の共有を深め、利用者日々の暮らしを支えている。	※	理念の意識づけができて、何をもってサービスに結びつけているかユニット内で話すようにしたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 「運営推進会議」で年間計画を説明する際や家族会の際に理念に触れるようにしている。頻回に機会を設けているわけではないが、以前より理解してもらえるようになった。	※	月々の業務カンファレンスや責任者会議の際に理念が具体化されたサービス提供ができたか振り返るようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 職員は地域の方にすすんであいさつをするようにしている。限られた方ではあるが、地域の方が気軽に立ち寄ってくださる。しかし多くの方が立ち寄ることは少ない。「運営推進会議」の際には近隣の方がよく参加していた。演芸等のためのボランティアの方が訪問してくださる。		気軽に立ち寄っていただけるような行事を工夫している。(蛍観賞会) 今後お工夫していきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 「運営推進会議」の中で、事業所の活動内容など説明し、意見交換している。地域行事にもできるだけ参加し、協力している。 (外部評価) ホームは自治会に加入しており、ホームの利用者が運動会、盆踊り、夏祭り等地域の行事に参加し、地域住民がホーム行事に参加するなど、双方向で良好な関係を築いている。また、利用者の友人の来訪、職場体験や実習生、ボランティアの受け入れも行うことで、地域との連携を図っている。	※	地域の協力を求めて、入居者がもっと地域行事に参加できるように働きかける。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 事業所職員が町内会に出向き、認知症高齢者の病態や生活について話したり、介護現場の現状を理解してもらうために講演活動を行ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が自己評価に取り組み、サービスの向上のため自覚をもって評価項目ひとつ、ひとつに向き合っている。改善点については地道に職員、開設者が一緒に検討して対策を講じている。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を十分理解しており、自己評価も全員で取り組み、振り返りを行うことで気づきを得ている。外部評価の結果は全員で共有し、改善計画を立ててサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 入居者・御家族・町内会役員・地域包括支援センター職員・市役所介護保険課担当者等の参加により、外部評価結果、活動計画を説明し、意見交換している。	※	もっと御家族の参加があり、多くの意見がいただけるように努める。場合によっては事前に意見をいただくようにする。
			(外部評価) 運営推進会議は利用者及び家族、地域住民、地域包括支援センター職員、市担当者などの出席を得て開催している。日時等は可能な限り出席者の希望に合わせることで多くの出席が得られるよう配慮している。会議内容は、ホーム側が研修会や行事、外部評価、避難訓練の報告等を行い、地域からは地域情報等を提供してもらうなど、相互の報告や意見交換を行っている。	※	現在はホームや地域の報告などが主な内容となっているが、認知症の理解や介護等に関する勉強会の開催など、地域の方が気軽に参加できるような内容での開催も検討し、さらに活発な会議となることを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村からの実習を受け入れたり、実務者連絡会に参加することで、必要な情報が得られるように努力している。サービス上の不明な点については、その都度保険者に相談している。		
			(外部評価) ホームの運営で気になることや不明な点等について密に連絡を取りながら相談している。また、ホームで市職員の研修も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護や成年後見制度についてファイルを作成し、各ユニットに配布し、いつでも職員が確認できるようにしている。入居時にも活用について説明している。しかし、積極的な活用には至っていない。	※	今後も活用に向け、説明し、職員の理解を深めていく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 回覧等で虐待のニュース記事を配布し、全スタッフが目を通して介護を見直すようにしている。また必要に応じて研修会を開いている。職員が互いに言葉づかいや対応に関して注意し合うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長・管理者・介護支援専門員が重要事項等について十分に説明している。重度化した場合や、看取りの指針、医療連携についてもくわしく説明し、同意を得るようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日ごろから入居者、御家族とのコミュニケーションを図り、思っていることを、口に出せる雰囲気づくりを心がけ、入居者の言葉や仕草から、その思いを察する努力をしたり、その時の意見や不安はカンファレンスや申し送りの際に話し合っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 入居者の暮らしぶりは毎月の手紙などを通して伝えるようにしている。健康状態についても気づいた点があれば、その都度主治医に確認しながら報告するようにしている。金銭管理についてはお小遣い帳を家族に確認してもらえるようにしている。 (外部評価) 毎月の利用者の状況に関する記録のほか、ホーム便りを発行して家族に郵送している。利用者の状態に応じては、電話連絡することもある。また、家族の来訪時には金銭出納帳の確認をいただいている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会等で常に問いかけたり、来所時に気軽に言ってもらえるような雰囲気作りをしている。意見、要望は全職員で共有し、カンファレンスなどで話合って見直していく。 (外部評価) 家族の来訪時や運営推進会議、家族会等で十分意見を聞くよう心がけている。また、重要事項説明書等にホーム及び公的な苦情申立先を明記することで、家族からの苦情や意見が出やすい環境を整えている。家族から寄せられた意見はカンファレンス等で職員全員で共有し、適切な対応ができるよう努めている。	※	家族だけの意見交換の場を作る

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスにて意見を出し合い、それを責任者会議や運営会議に反映している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 事前にわかっているような行事ごとについては柔軟に勤務調整している。また入居者の緊急時には理事長、副理事長、看護師等の応援がえられ、ケアの継続ができるように配慮している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の離職により、入居者のケアの継続に悪影響がないように努力している。離職後も必要な人員が確保されるように努めている。 (外部評価) 職員の異動は最小限に抑えるよう努力しており、また普段からユニット間の職員の交流も行い、利用者に不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の内容、日程等が配布され、自分に必要な研修、また状況に応じた研修に参加している。 (外部評価) 管理者が職員それぞれに応じた研修への参加を促しているほか、職員自らが希望する研修にも積極的に参加できる体制を整えている。研修後は報告書を作成し、会議などで共有している。	※	重度や終末期のケアも行っているので、内部研修の充実、外部研修への参加促進により更なるサービスの質の向上を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 行事ごとに互いに招待し合って参加したり、グループホーム同士の小規模な学習会もある。その学習会のために事例をまとめて検討会をしたりしている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入して他のホームと交流を図っている。他ホームと相互に研修会や行事に参加し合ったり情報交換するなどして、サービスの質の向上に努めている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員主催の親睦会を通して、ストレスを発散できる機会を作っている。面接の機会が設けられ、悩み、不安等話しやすい雰囲気づくりがある。		職員全員が本音で話せるような機会、個別面談の機会を今後も設けるようにする。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 次のステップがふめるよう、研修や資格取得についてのアドバイスをしてもらえ。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居者情報などで、生活状態を把握し、本人のおかれている状況を理解し、入居者、御家族からの相談は納得いくまで聴くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時から御家族と話す時間を十分にとって不安に思うことや困っていることを十分聴くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時点で、ケアカンファレンスを開催し、入居者にとって必要な支援を関係機関が一緒になって話し合うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) その人なりの生き方、生活リズムを知るために、御家族から情報を得て、暮らしの継続ができるようにしている。また短期入所のサービスから馴染めるか、検討することもある。 (外部評価) 病院や施設から直接ホームに入居するケースもあるが、そのような場合でも職員が事前に本人の所を訪問し、ホームの説明や本人の生活歴の把握を行っている。また、ホームに利用者と家族に来てもらって過ごすこともあり、一日も早くホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人を尊重し、誇りやプライバシーが保たれる言葉かけや対応をしている。共に時間を共有し、本人の意見や希望をよく聞いて暮らしの中で生かせるよう見守りながら支えている。職員は入居者の笑顔「ありがとう」の言葉に支えられている。 (外部評価) 利用者の豊かな人生経験の話を聞いたり、調理や歌など得意分野を教えてもらうことで、お互い支えあう関係を築くよう努めている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会、面会などで、家族の思い、考えを聞き、よりよい生活が送れるよう、共に検討している。また日頃から話しやすい環境を整え、感情が表出しやすいように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者、御家族から詳細な家族関係を聞いて把握し、それに基づいてよい関係が築けるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者本人からの希望があれば、電話をかけたり、取り次いだり、馴染みの人や場所などの関係が途切れないようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 性別や認知症の程度により関係性が異なるが、日々の言動を観察しながら、よりよい環境やかかわりが持てるように配慮している。たとえばホールの座席、ソファの座席など・・・ またコミュニケーションをうまくとれない方については、職員が間に入って孤立しないように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 施設に入所したり、病院に入院した場合には、密に連絡を取り合い、関係を継続している。退居された場合でも生活につまづかないように必要な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時や日々の会話の中から趣味や以前の経験を把握し、カンファレンスを行い、希望にそえるように努めている。 (外部評価) 本人から話を聞いたり、表情や行動を観察して意向を汲み取るほか、家族の来訪時にも話を聞いて把握するよう努めている。把握した情報はケアカンファレンス等で話し合い、日々の支援に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に御家族から情報を収集し、入居後は本人との会話の中からこれまでの生活環境などの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個々の状態に応じ変更できるように1日の生活の流れを介護の記録・連絡ノート・気づきノートの活用で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族会・面会時に、御家族から意見や要望を聞き、入居者と日頃からコミュニケーションをとる中で、意見・要望に応じ、カンファレンスを実施し、ケアプランを作成している。 (外部評価) 本人や家族の希望を聞いたり、担当職員の気づきや意見も取り入れて話し合いを行い、一人ひとりの状態に合わせた介護計画を作成し、家族にも説明している。また、日々の申し送りは専用のファイルで整理し、確実に伝わるようにしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3か月ごとには見直している。状況に変化があった場合は、その都度見直しを行っている。計画に見直しの必要性については、毎月、ケアプランチェック表を活用して行っている。 (外部評価) 定期的に見直しを行い評価するほか、チェック表を作成し、1か月毎にカンファレンスで介護計画のチェックを行っている。状態に変化があればその都度話し合いを行い、新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録し、介護計画上に反映される。内容には蛍光マーカーで印を入れ、認識できるように工夫している。また気になること等は必要に応じて申し送りやカンファレンスで共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 同敷地内の通所介護・訪問介護事業所等と連携して短期入所を受け入れたり、場合によっては行事を合同で実施したりして柔軟に支援している。 (外部評価) かかりつけ医の受診支援は原則職員が行っているが、対応できない場合には利用者の許可を得て介護タクシーを利用することもある。看護師の資格を持つ職員も多く、また、母体である医療機関とも連携を密にし、医療支援体制の充実を図っている。部屋に空きがあれば短期入所も受け入れるほか、家族の宿泊も可能となっている。	※	慣れ親しんだグループホームでできるだけ最期まで暮らしたいという本人、家族の意向が強くなっている。今後もそういったニーズにしっかり応えられるように体制強化に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 養護学校・中・高生・一般のボランティアの方の参加や防災訓練・救命訓練などが行われ、協力しながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 介護支援専門員が中心になって支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 管理者・介護支援専門員が中心になって協働できている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に診察が必要な方には、御家族や本人の希望を聞き、できるだけ希望に沿うように支援している。また、主治医と連携をとりながら継続して医療が受けられるよう配慮している。 (外部評価) 協力医療機関をかかりつけ医としている利用者も多いが、本人や家族の希望に合わせて協力医療機関以外の受診も支援している。受診には職員が付き添うことが多く、一人ひとりの状態を把握できている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて専門医の診療を受けたり、特に入居前にはできるだけ専門医を受診することを勧めている。また専門医との事例検討会を通して意見をいただくこともある。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 各ユニットに看護職員が配置されており、看護職員会議を通して情報の共有方法や処置の体制等について取り決めている。また主治医との連絡も主に看護職員が行うため入居者・御家族は安心されている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時から病態の把握に努め、安心して退院し、元の生活に戻れるように情報交換している。看護職員・主治医が主に窓口になって病院関係者と退院後の生活に関する情報交換をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 主治医・御家族の意見を確認した上で、職員全員で話し合い、個別に援助方針を決めている。ターミナルケア全体像に関して漠然としか考えられない職員もいる。 (外部評価) 重度化や終末期のケアに関する対応の指針を定めており、入居時には必ず説明を行うほか、本人及び家族の希望も聞いている。また、利用者の状況が変わればその都度話し合いを持っている。これまでに終末期のケアを経験したこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 疾病の理解、治療方針や今後考えられる経過についても頻回にカンファレンスしている。療養上事業所として可能な援助に関しては、入居時から伝え、また状況に応じてその都度見極めている。また当初説明していても可能な限りの支援をしていける策も検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 関係者間で十分なカンファレンスや情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりのプライバシーを損ねないような言葉かけを互いに注意し合っている。 (外部評価) 職員の言葉かけは穏やかであり、プライバシーを損ねないよう、一人ひとりの状況に合わせて対応している。言葉かけで気になるようなことがあれば互いに注意し合い、改善に取り組むようにしている。個人情報については各ユニットで保管し、適切な取り扱いに努めている。	※	常に「原点」を忘れず、専門職であることに誇りを持って、今後も職員が互いに注意しあい、振りかえるようにする。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 1度では説明しても理解してもらえないことも多い。何が不満か、どのような希望があるのか表情からくみ取りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々に満足されているか不明な部分もある。つつい重度の入居者や行動障害のある入居者の介護に時間がかかり、希望が叶えられず待ってもらうこともある。 (外部評価) 職員は、一人ひとりのペースに合わせて、その日の本人の希望に沿って支援するよう努めている。利用者は自分の好きなことを自分のペースで思い思いにしながら、日々の生活を送っている。	※	毎日その人のペースを大切にできない日には、「今日はどう過ごそうか」といったように日々に目標をもって支援していく方法を考えていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ほとんどの方は出張美容サービスを利用されることが多い。中にはご家族と外出して、行きつけの理美容店に行く方もある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 全体的に入居者のADLの低下から職員と一緒に調理することが難しくなっている方も多。中には調理の下ごしらえや片付けと一緒にして下さる方も多。入居者から教えていただくことも多。 (外部評価) 利用者に食事の準備や片付けなど、できることを手伝ってもらっている。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら食事をし、介助が必要な方には横に座り、さりげなくサポートしている。利用者が自力で食べることを大切にしており、時間がかかってもやさしく見守り、それぞれの力を最大限に発揮できるよう配慮している。	※	簡単な下ごしらえは今後も一緒に行きたい。調理全般ができなくても買い物と一緒に行ってメニューを考えたりして調理に携わってもらえるように支援していく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) その人の好みに合わせて個別に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個別に排泄パターンを把握し、アセスメントして介護計画にいかしている。また入居者が気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前にバイタル・健康状態を確認して本人の希望に沿った日や時間に支援している。 (外部評価) チェック表を作成し、利用者の入浴状況を把握している。リフトを利用したり、職員2人で入浴を介助するなどして利用者一人ひとりのニーズや状態に応じた入浴支援を行っている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 活動リズムに応じて、日中外気浴をしたり、眠前にホットミルクを飲んでもらったりしている。冬場は希望される方に湯タンポを使用したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 健康状態の悪化等により、難しい方もいるが、できる限り気晴らしができるように支援している。 (外部評価) 利用者は農作業や掃除、洗濯を手伝うほか、碁や編み物、カラオケ、歌、踊りなど、それぞれの役割や趣味を楽しみ、また地域やホームの行事に参加するなど楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理能力のある方については、本人に管理してもらっている。自己管理できない方は金庫に個別で管理している。またお小遣い帳として記録に残し、家族的に確認してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 身体レベルに応じて決して多くはないが、外出支援している。 (外部評価) 買い物などの希望に応じて外出を支援している。その他、季節に応じて畑で農作業をしたり、花に水をやったり、天気の良い日には利用者と一緒の外に出て洗濯物を干すなど、できるだけ戸外に出て外気に触れられるよう配慮している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年4～5回御家族の協力も得ながら実現している。入居者の身体レベルの低下もあり、車椅子の方も多し。協力職員を呼びかけながら工夫している。またちょっとした外気浴ができればように支援している。		グループホームの年間計画はたてているが、ユニットごとの外出計画はたてられていないが、入居者の状態を見ながらその日に計画することも継続していく
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 日常的に使用できる。電話は子機を使って居室でも使用できる。手紙も自由に書いたりでき、個人宛の手紙も郵送されてくる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 笑顔であいさつすることを心がけている。お茶を勧めたりして、会話がスムーズに進むよう加わることもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 正しく理解されている。ベッド柵の固定については主治医が必要と考える際には検討を重ねて同意をいただき、その後の観察、検討も継続している。その期間も最低限に限られるように努めている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施錠はしていない。 (外部評価) 利用者の自由な暮らしを支えるため日中は鍵はかけておらず、近所の方や家族が気軽に訪ねて来られるよう配慮しているが、利用者の中には外出の傾向がある方も居るため、職員は見守りには細心の注意を払っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 記録・食事・配膳ほか作業（洗濯たたみ）も入居者がよく見える場所にて行い、どこで何をしているのか確認できるように配慮している。（作業は入居者と職員が一緒にすることが多い）		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) はさみ、爪きり、刃物等は自己管理でき、危害を加えるリスクがない方は持っておられる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 徘徊・誤嚥・嚥下困難・下肢筋力の低下等、一人、ひとりの状態を確認し、個々に応じた事故防止に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的ではないが、訓練は行っている。基本的に、主治医・看護師の指示に従って実施している。マニュアルも作成されており、ファイルはユニット内の目の届くところに置いている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を実施しており、「運営推進会議」でも報告している。地域と共に防災意識を高めるために、消防署で行われる「防災トーク」に毎月参加している。 (外部評価) 消防署の協力を得て、定期的に地域住民と一緒に避難訓練を行っている。また、夜間に抜き打ちで緊急連絡及び召集訓練も行っている。その他、地域の自主防災会にも加入しているほか、消防署で実施している防災トークにも参加している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒・誤嚥など考えられるリスクを支援計画立案時に課題として検討している。また御家族にもよく説明して理解いただけるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 職員全員がわかりやすいように、経過を追って記録している。職員間でも申し送りしながら共有し、主治医にもその都度報告している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方される薬を分包してもらって、個人に合わせて服用しやすい形態に工夫して支援している。また使用薬の説明書を個人ごとにファイル化し、変更があってもわかるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 入居者個々の支援計画書内に、便秘に対する援助方法を記入して共有している。飲食物についても状態に応じて工夫している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔内の清浄に努めている。また義歯は毎夕洗浄し、消毒している。個々の口腔の状態に応じて支援している。自分でできない入居者で、必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアを受けている方もいる。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 疾病・嚥下能力や体調に応じて、食事内容を変更して食べられる工夫をしている。状態に応じて食事の形態も個別に工夫している。また1日の水分出納チェックを行い、摂取量がどうしても確保できない場合には主治医と相談して援助している。 (外部評価) 利用者の食事、水分摂取量を細かく記載している。現在、食事制限が必要な利用者はいないが、必要がある場合には医療機関で栄養指導を受けるなどして配慮している。献立は利用者の希望を聞きながら、栄養のバランスに気をつけて作成しており、利用者の状態に合わせて粥食や刻み食などを用意している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策マニュアルを基に実行している。また地域社会の動向にも目を向け、情報を収集して研修活動にも参加している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材については衛生管理マニュアルに沿って管理し、また食器や調理器具については夕食後に消毒している。また感染症が多発する時期には毎食後消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 門にユニットも明示がされており、近所の方も気軽に立ち寄ってくださる。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの生活があり、居心地については、個別に確認しながら過ごす空間を工夫したり、空間を変えたりしている。 (外部評価) 共用空間の家具は各ユニットでそれぞれの状況に応じたものを使い、利用者が過ごしやすい空間となるよう工夫している。利用者の手作りによる大きくて見やすいカレンダーを掲げている。また、共用部分の所々に季節が感じられるような花や装飾品をさりげなく飾っている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有部分にソファが2か所あり、TVがあり、自由に過ごせる空間もある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できるだけ、長年使用した家具等を持ち込んでもらうように声かけしている。また入居者が動きやすさ、安全確保を第一に希望を聞きながら配慮している。 (外部評価) 利用者がそれぞれ家庭で使用していた馴染みの家具や愛用品を置き、本人に合わせたその人らしい部屋づくりがなされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気に留意し、清掃時はもちろん窓を開け、外気を入れている。各部屋には空気清浄機があり、トイレには脱臭装置がある。冬季には空気の乾燥を防ぐために、加湿器を利用している。入居者に確認し、体調に配慮しながら温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホール・トイレ・洗面所等各箇所に手すりがあり、入居者が安全に自立した日常生活を送ることに役立っている。また必要に応じて居室内の家具の配置にも工夫をして安全に留意している。ホールは広いが、車椅子を使用される方が増え、ホール内のすれ違いができないときもある。	※	今後も十分なスペースが確保できるように家具等の位置を工夫したり、あるいは伝ったりできるように配置していく。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 認知症の程度、理解力に応じ、自然な形でできることをしてもらっている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 敷地内の花壇や畑に自由に行って散歩できたりする。また池の生き物を見て楽しむこともできる。時には自由に花を摘んで生けたり、押し花を楽しまれることもある。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入居者と話す時間をとても大切にしている。入居者の思いや願いを職員が理解している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	あわただしい時でも、そう見せない職員のゆったりとした対応で入居者は好きずきに時間を過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者のペースを理解して職員はゆっくり待つようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	安心し、時にはわがままを言い、家ではあまり関わらなかった家事に参加することで、認められた満足感が、表情や姿に現れる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	重度化した入居者と元気な入居者で外出する機会は両極端である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医療支援の体制を強化している。最期までケアできる職員の力量も向上してきている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	できる限り柔軟に外出支援できるようにしている。外気浴や散歩もその時々で要望に応じている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	とにかく御家族等が来所されるときの情報交換の時間を大切にしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	デイサービスでの馴染みの方が訪問して下さる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	行事ごとなど地域の協力がなければ、成り立っていないと考えている。また良好な関係づくりに日々努力している。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々緊張感をもってケアしている上に地域の連携など課せられる課題がたくさんだと思うこともあるが、ケアしている時間はとても充実している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	安心した表情や言動からおおむね満足していると考ええる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	在宅で家族が支えられずに入居されていることを考えてケアしているので、専門的なケアが受けられることに満足されていると考ええる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

職員が利用者をいとおしく思い、「笑顔」に癒され、利用者が職員の「笑顔」に安心して、「笑顔」で反応してくれる。開設当初から入居されている方も多く、家族介護＋専門職の介護と一緒に介護と思う時がある。医療法人が母体であり、しっかりとした医療面のサポートが受けられる。事業主が地域にも一緒に出て行き、地域との連携にも尽力している。地域との連携がとれ、地域に根付いた事業所を目指している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) たんぽぽ

記入者(管理者)
氏名 黒田ひとみ

評価完了日 平成 20 年 7 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 作成できている。 「明るく、楽しく、穏やかに」をモットーに支えていく理念を具体化している。 (外部評価) 「明るく 楽しく 穏やかに」という理念は、職員で話し合っってつくったホーム独自の理念で、地域密着を基本方針として運営に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員の採用時には、必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。 ユニットの入り口に掲示している。 (外部評価) 理念は基本方針と共に各ユニットに明示し、誰でも見ることができるようになってきている。管理者及び職員は会議等で理念の共有を深め、利用者の日々の暮らしを支えている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に地域の人や家族に参加してもらい、見学の場面を作ったり、分かりやすく説明をしている。 町内会や地域のイベントに参加し、事業所の実践内容を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 普段の生活の中で行ったり来たりの関係が出来ている。イベントのある時、近隣の住民に声をかけると、すぐに遊びに来てくれたり、気軽に立ち寄ってくれたりと触れ合う機会が出来ている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域活動や行事には積極的に参加している。運動会や盆踊りなど入居者も一緒に参加している。夏祭りは地域行事の1つになっている。 (外部評価) ホームは自治会に加入しており、ホームの利用者が運動会、盆踊り、夏祭り等地域の行事に参加し、地域住民がホーム行事に参加するなど、双方向で良好な関係を築いている。また、利用者の友人の来訪、職場体験や実習生、ボランティアの受け入れも行うことで、地域との連携を図っている。	※	もっと一緒に参加できる行事には、入居者も参加するようにしたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の様々な研修、会合に関わり、何か役に立つことがあればと話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全スタッフで行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果を踏まえて、改善計画を作成し、実践に向け努力している。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を十分理解しており、自己評価も全員で取り組み、振り返りを行うことで気づきを得ている。外部評価の結果は全員で共有し、改善計画を立ててサービスの質の向上に取り組んでいる。	※	全スタッフに一人ひとり自己評価を行ってもらい、振りかえっている。改善策を日々の中で頭に入れて取り組んでいく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年間計画、実践など取り組み状況について地域の人、御家族等や市の職員の方々にも参加してもらい、伝えている。 要望や意見を聞き、サービスの向上に努めている。 (外部評価) 運営推進会議は利用者及び家族、地域住民、地域包括支援センター職員、市担当者などの出席を得て開催している。日時等は可能な限り出席者の希望に合わせて多くの出席が得られるよう配慮している。会議内容は、ホーム側が研修会や行事、外部評価、避難訓練の報告等を行い、地域からは地域情報等を提供してもらうなど、相互の報告や意見交換を行っている。	※	現在はホームや地域の報告などが主な内容となっているが、認知症の理解や介護等に関する勉強会の開催など、地域の方が気軽に参加できるような内容での開催も検討し、さらに活発な会議となることを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 特に行き来する機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる。(ケマネージャー等) (外部評価) ホームの運営で気になることや不明な点等について密に連絡を取りながら相談している。また、ホームで市職員の研修も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について、ファイルを作り、見てもらうようにしているが、理解できていないスタッフもいるように思う。 現在、特に必要性のある入居者はいない。	※	全職員にファイルに目を通すよう徹底する。 分かりにくいことは関係機関などに聞いたりしている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) テレビなどでニュースになった虐待などは、回覧で回し、見過ごすことのないように、全職員に注意している。	※	高齢者虐待防止法について学ぶ機会をもっと作る。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項など丁寧に時間をとり、ゆっくり十分に説明している。 重度化や看取りについての対応、医療連携について、金銭管理規定についても詳しく説明し、同意を得ている。	※	医療面、ターミナルについては、その都度改めて説明もしている。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の言葉や態度から、その思いを察する努力をしたり、その時々々の不安や意見はカンファレンスや申し送りの時に話し合い、特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。	※	入居者の意見がもっと反映できるように努力し、御家族にも協力を得る必要がある
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 入居者の暮らしぶりや健康状態について月1回御家族へ手紙を書いて報告している。 お小遣いの残高も同様に報告している。 訪問された時にも、声をかけて状況を話すようにしている。 <hr/> (外部評価) 毎月の利用者の状況に関する記録のほか、ホーム便りを発行して家族に郵送している。利用者の状態に応じては、電話連絡することもある。また、家族の来訪時には金銭出納帳の確認をいただいている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会等で常に問いかけたり、聞きだしたりしている。意見、要望は全スタッフで共有し、話し合い、反映されている。 不満や気づいたことがあると、スタッフへ気軽に言ってもらえている。 <hr/> (外部評価) 家族の来訪時や運営推進会議、家族会等で十分意見を聞くよう心がけている。また、重要事項説明書等にホーム及び公的な苦情申立先を明記することで、家族からの苦情や意見が出やすい環境を整えている。家族から寄せられた意見はカンファレンス等で職員全員で共有し、適切な対応ができるよう努めている。	※	スタッフを除き、御家族だけの場を作ると話しやすいのでは。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常日頃からコミュニケーションを図ったり、問いかけたりはしている。 個別の面談をしている。 (苦情、不満はあるも言い難い部分もあるように思う)		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) スタッフにあまり余裕がないように思う。 3対1の体制になっているが、身体レベルの低下や差があり、要望に答えられないこともある。 急に何かある時、助けてくれる人がいる。	※	フリーの職員がいて、いつでもフォローできるよう柔軟な体制にして欲しい。 2Fはスタッフの人数的にはゆとりが出来ている。(4人体制の日もある)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 家族さんの信頼を築くためにも、利用者の不安の軽減のためにも顔馴染みの職員のケアを心がけたりと継続的に支えるようにしている。 異動などやむを得ない時は、引き継ぎをしっかりとしている。 (外部評価) 職員の異動は最小限に抑えるよう努力しており、また普段からユニット間の職員の交流も行い、利用者に不安を与えないよう配慮している。		馴染みの職員で家族、利用者ともに信頼関係を作り、不安なく生活できるように努力している。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるように順番に参加してもらっている。 (外部評価) 管理者が職員それぞれに応じた研修への参加を促しているほか、職員自らが希望する研修にも積極的に参加できる体制を整えている。研修後は報告書を作成し、会議などで共有している。	※	全体研修で報告したりしているが、研修内容を全職員で共有し合うようにしたい。
				※	重度や終末期のケアも行っているので、内部研修の充実、外部研修への参加促進により更なるサービスの質の向上を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に入会し、スタッフ研修に参加し、質の向上に努めている。 中予ブロック研修などの勉強会に参加し、意見交換をしたりしている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入して他のホームと交流を図っている。他ホームと相互に研修会や行事に参加し合ったり情報交換するなどして、サービスの質の向上に努めている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ずっと同じ所、同じ人で顔を合わせて、疲労、ストレスがたまっている職員が多い。	※	同じことを繰り返し言われ、精神的、肉体的にもストレスになっている。 異動をしてもらおう。(職員の異動を考えることもあるが、本人の希望と合わないこともあり難しい。 気分転換を図るようにしてもらおう。(しっかり休憩をとってもらおう)
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) スタッフ一人ひとりに役割を持ってもらい、目標を立てて働くようにしている。	※	向上心をもてる環境、条件について具体的な配慮や工夫をする。(やる気もてるように)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で生活状況を把握するように努め、本人の置かれている状況を理解し、不安なこと、困っていることを聞くようにしている。	※	本人の困っていること、不安なことを本人の意志とは区別して把握する。(本人と御家族の求めている生活は違う)
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の苦労や今までのサービス利用状況を聞くようにしている。 御家族の不安なこと、求めていることを理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか話しをしている。	※	同上

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、御家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援の相談にのり、必要なサービスにつなげるよう努力している。 (ショート利用、入居など)		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家に出向いて生活状況を見て、同じような部屋の状況を作り、安心できるようにしている。 本人にもできるだけ見学に来てもらってから、サービスの利用を決めている。 (外部評価) 病院や施設から直接ホームに入居するケースもあるが、そのような場合でも職員が事前に本人の所を訪問し、ホームの説明や本人の生活歴の把握を行っている。また、ホームに利用者と家族に来てもらって過ごすこともあり、一日も早くホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションをとりながら生活し、喜びや悲しみなど共感している。 洗濯物を干したり、食器を片づけたり、助け合いながら教えてもらい、関係を作っている。 (外部評価) 利用者の豊かな人生経験の話を聞いたり、調理や歌など得意分野を教えてもらうことで、お互い支えあう関係を築くよう努めている。		一緒にできる場面をもっと増やす。 取りあえず一緒にしてみることから始めてみるようにしている。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の出来事、体調の変化、気づきの情報を共有し、本人と一緒に支えるよう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 御家族と本人の思いを見極めながら、外出、外泊などでご家族と一緒に時間を過ごすように勧めてみたり、行事に御家族を誘い参加してもらい、より良い関係ができるよう支援している	※	本人の思い、御家族の思いを受け止めて、両者の思いが結び付くような働きかけをする。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 誰でも、いつでも面会にきてもらえるようにしている。	※	近所に住んでいた所の人との関わりがもっとできれば良い。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事の時、お茶を飲むよう声をかけてくれたり、ティッシュを渡してくれたり他の人を気遣う利用者もいる。皆で過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面を作っている。		心身の状況やきぶん、感情など日々の変化を注意深く見守っている。 作業をしながら話したりされている。 誘ったり、誘われたりと利用者同士で行動される場面も多い。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院したら面会へ行くようにしている。（状況把握のため） 関わりを必要とする家族とは関係を大切に、その後の状況も詳しく教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何をしたいか、誰に会いたい把握できていても、スタッフの人数不足や御家族の協力が得られず困難なことも多い。希望に希望に沿えるように努めている。 (外部評価) 本人から話を聞いたり、表情や行動を観察して意向を汲み取るほか、家族の来訪時にも話を聞いて把握するよう努めている。把握した情報はケアカンファレンス等で話し合い、日々の支援に役立てている。	※	スタッフに余裕が持て、御家族やボランティアの協力を得ながら外出の機会をもつようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みのものを持ち込んでもらうようにしている。フェースシートを御家族にも記入していただき、経過(バックグラウンド)の把握に努めている。また在宅時の家を訪問し、生活環境の確認をしたりしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人、ひとりの一日の過ごし方を理解し、行動や動作から心身の状況の把握に努めている。またできること、できないことを知るためにも、日々入居者を見守っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、御家族の思い、意見をきき、反映させるようにしている。アセスメントを含めてスタッフが意見交換している。本人にもカンファレンスに参加してもらい、意見をプランにもりこんでいる。 <hr/> (外部評価) 本人や家族の希望を聞いたり、担当職員の気づきや意見も取り入れて話し合いを行い、一人ひとりの状態に合わせた介護計画を作成し、家族にも説明している。また、日々の申し送りは専用のファイルで整理し、確実に伝わるようにしている。		今後も本人、御家族に可能な限り参加していただく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 御家族や関係者も含めて情報を共有し、状態が変わった場合には再度検討しなおして、プランを修正したりしている。 <hr/> (外部評価) 定期的に見直しを行い評価するほか、チェック表を作成し、1か月毎にカンファレンスで介護計画のチェックを行っている。状態に変化があればその都度話し合いを行い、新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に水分・食事・排泄など身体的状況、日々の暮らしの状況、本人のエピソードなど気づいた点を記録に残している。情報を共有し、プランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々のサービスに満足感を得られるように支援している。急な外出・外泊にも状況に応じて対応している。 (外部評価) かかりつけ医の受診支援は原則職員が行っているが、対応できない場合には利用者の許可を得て介護タクシーを利用することもある。看護師の資格を持つ職員も多く、また、母体である医療機関とも連携を密にし、医療支援体制の充実を図っている。部屋に空きがあれば短期入所も受け入れるほか、家族の宿泊も可能となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の人に常日頃から声をかけて働きかけをし、協力を得ている。安心して暮らせるよう消防・警察との意見交換の機会を設けている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 介護支援専門員を中心に支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に包括支援センターの職員に参加してもらって関係が強化されている。地域の周辺の情報や支援に関する情報の交換がされ、協働できている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診や通院は本人や御家族の希望に応じて対応している。かかりつけ医との連携を密にして御家族と情報交換し、共有している。御家族の同行が困難な場合は職員で対応している。 (外部評価) 協力医療機関をかかりつけ医としている利用者も多いが、本人や家族の希望に合わせて協力医療機関以外の受診も支援している。受診には職員が付き添うことが多く、一人ひとりの状態を把握できている。		主治医・担当医・御家族・職員で情報を共有し、連携を密にとるようにしている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の専門医に相談できる機会や事例検討できる機会がある。その際に助言や最近の治療に関する情報を得る機会にもなっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 医療機関との連携があり、緊急時の対応もすぐとれる。各ユニットに1人以上看護職員が配置されている。常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援ができる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 介護サマリーに詳しく支援状況を記入して情報交換している。御家族や病院の職員から状態を聞いたり、医療機関と相談しながら早期退院に向け協働している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 主治医・看護職員・御家族・職員全員で急変時の対応など話し合うようにしている。御家族には常にどうしてほしいかを聴くようにしている。 (外部評価) 重度化や終末期のケアに関する対応の指針を定めており、入居時には必ず説明を行うほか、本人及び家族の希望も聞いている。また、利用者の状況が変わればその都度話し合いを持っている。これまでに終末期のケアを経験したこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人の気持ちを大切にしつつ、御家族と話しあい、入居者が安心して終末期を迎えられるようにしている。急変時は対応できる医療機関と連携している。職員が不安に感じることも、カンファレンス時に御家族に聴いてもらうようにしている。		御家族がどこまで協力できるのか話し合っている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他に移る時は、これまでの暮らしの継続ができるように生活状況・支援状況・基本動作など介護サマリーに記入し、情報交換して、今後ダメージにならないように心がけている。		移り住む不安感がないように今の生活環境を見ていただくようにしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉や口調が強くなり、さりげない声かけができていない時があることを職員は互いに注意し合って反省している。つつい説明しがちな場面がある。個人情報の取り扱いには方針やマニュアルがあり、入職時に指導されている。 <hr/> (外部評価) 職員の言葉かけは穏やかであり、プライバシーを損なわないよう、一人ひとりの状況に合わせて対応している。言葉かけで気になるようなことがあれば互いに注意し合い、改善に取り組むようにしている。個人情報については各ユニットで保管し、適切な取り扱いに努めている。	※	職員各自の「ゆとり」が大切で、それによりゆっくり傾聴できると考える。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人にも聞きながら意見をとり入れている。入居者一人、ひとりに合わせて声かけをしたり、意志表示の困難な入居者は表情やしぐさなどから読み取るようにしている。	※	複数の選択肢を準備して声かけすることを心がける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の生活リズムにそって個々のペースで暮らしている。外出時、一人、ひとりがしたいことがしたい時にできないこともある。 (外部評価) 職員は、一人ひとりのペースに合わせて、その日の本人の希望に沿って支援するよう努めている。利用者は自分の好きなことを自分のペースで思い思いにしながら、日々の生活を送っている。	※	可能な限り、意志を尊重して柔軟に対応できるように体制を考えていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理美容は本人の望むようにしている。出張美容サービスを利用される方も多し。また行きつけの店がある方は御家族の協力を得ながら支援している。	※	服などは本人に選択する場面をもっとつくるようにしたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と入居者が同じテーブルで、同じものを楽しく食べている。一緒に下ごしらえをしたり、食器の後片付けをしてくれる入居者もいる。またある入居者の御家族がユニット全員分のおかずを作って持ってきてくれたりしながら和やかに食事している。 (外部評価) 利用者に食事の準備や片付けなど、できることを手伝ってもらっている。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら食事をし、介助が必要な方には横に座り、さりげなくサポートしている。利用者が自力で食べることを大切にしており、時間がかかってもやさしく見守り、それぞれの力を最大限に発揮できるよう配慮している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 御家族の協力を得たり、一緒にパンを買いにでかけたりしている。喫煙される入居者については見守りながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、トイレ誘導している。入居されて失禁が減っている入居者の場合には布パンツに変更したりしている。個々の状態によって対応している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の希望を聞いて順番など相談している。嫌がる入居者の場合には声かけや対応の工夫をしている。自分で意思表示できない方は清潔が保てるように支援している。 (外部評価) チェック表を作成し、利用者の入浴状況を把握している。リフトを利用したり、職員2人で入浴を介助するなどして利用者一人ひとりのニーズや状態に応じた入浴支援を行っている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) その人の体調に合わせてお昼寝をとりいれたりしている。昼夜逆転経口にある入居者の場合には日中の活動を促し、生活リズムが整うように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 踊りや歌などの演芸を楽しみにいたり、イベント等に参加してもらうように支援している。フェースシートを利用して本人が気晴らしになること、楽しみ事を把握して活かしている。 (外部評価) 利用者は農作業や掃除、洗濯を手伝うほか、碁や編み物、カラオケ、歌、踊りなど、それぞれの役割や趣味を楽しみ、また地域やホームの行事に参加するなど楽しんでいる。	※	外出や楽しみをもつ支援を工夫していきたい。入居者がしたいことを聞いたりする機会を多くもつようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人がお金を使う場面が少ない。中には果物やパンを移動スーパー（八百屋）・パン屋から買う。被害妄想のある入居者などはそれが難しい場合もある。少額なら管理できる入居者には管理してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 2Fであることもあって入居者が外出する場合には常に職員の見守りが必要な場合も多くて、ちょっとした外出でとまっている。 (外部評価) 買い物などの希望に応じて外出を支援している。その他、季節に応じて畑で農作業をしたり、花に水をやったり、天気の良い日には利用者と一緒の外に出て洗濯物を干すなど、できるだけ戸外に出て外気に触れられるよう配慮している。	※	ちょっとした外気浴だけでももっと工夫したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 御家族の協力により外出される方もおられるが、全員とはいかない。全体での外出は計画をたてて実施している。	※	一人ずつからでも希望を開きながら実現していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望された場合には電話をかけられるように支援し、手紙も送られてくる。	※	手紙のかける入居者にもっと働きかけたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に来所しやすい雰囲気づくりに心かけている。会いたいときにはいつでも来てもらえ、宿泊もしていただけるように支援している。		御家族同士の交流も家族会や面会等でできている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 虐待、拘束のニュースなどは記事を回覧で回して職員全員が目を通し、改めて申し送りの際などに話し合っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の状態によって対応しているが、興奮が激しい場合には一時的に鍵をかけたこともある。その日の一人、ひとりの状態に応じた支援しより、鍵をかけずにケアできることを職員は理解している。	※	閉塞感のない、落ち着いた環境をもっと検討していきたい。
			(外部評価) 利用者の自由な暮らしを支えるため日中は鍵はかけておらず、近所の方や家族が気軽に訪ねて来られるよう配慮しているが、利用者の中には外出の傾向がある方も居るため、職員は見守りには細心の注意を払っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 入居者が過ごす空間で記録し、さりげなく全体を観察している。安全に配慮しながら24時間見守っている。夜間も数時間毎(状態によっては頻回に)に巡回している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個々の状態に応じて、利用してもらったり、見守りながら使用してもらっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状態から考えられるリスクを予測し、事故を防ぐために、日々の申し送りの際にも話し合っている。		報告・連絡・相談の体制がとれてきている。研修等に参加して職員全員が対応できるように努力している。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当・急変時の対応について研修を定期的に行っている。夜間は他のユニットからの応援を受け対応できている。状態の思わしくない入居者については、ユニット職員全員、看護職員全員で情報を共有している。	※	冷静に対応できるように今後も研修を繰り返したい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練をし、防災トーク、研修会に参加して運営推進会議などで、地域の方に協力を呼びかけている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、定期的に地域住民と一緒に避難訓練を行っている。また、夜間に抜き打ちで緊急連絡及び召集訓練も行っている。その他、地域の自主防災会にも加入しているほか、消防署で実施している防災トークにも参加している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 主治医・看護職員とも話し合い、状況を常に報告して御家族の意向をしっかりと聞きとるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化、異常がある場合には昼夜を問わず主治医に連絡し、指示が得られる。毎日バイタルをチェックし、異常のある場合には速やかに報告して頻回にチェックするようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをつくり支援しており、症状の変化や副作用などを確認して変化があれば主治医等に相談している。内服確認をきちんとしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事量、水分摂取量のチェックを行い、摂取状況を把握している。やむを得ないときは主治医の指示で下剤を服用することもある。水分を多くとるように工夫したり、運動の声かけ支援もしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアに心がけている。入居者も食後は習慣化され、あたり前のように洗面所に行く方が多い。一人、ひとりの状況に合わせて見守り、介助している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分摂取量のチェックを記録に残している。必要に応じて、栄養をとれるもので補っている。主食をパンにしたり、水分は工夫してのんでもらっている。 (外部評価) 利用者の食事、水分摂取量を細かく記載している。現在、食事制限が必要な利用者はいないが、必要がある場合には医療機関で栄養指導を受けるなどして配慮している。献立は利用者の希望を聞きながら、栄養のバランスに気をつけて作成しており、利用者の状態に合わせて粥食や刻み食などを用意している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルがあり、全スタッフで予防に取り組んでいる。ハイター消毒を毎日している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理マニュアルに沿って取り組んでいる。まな板、ふきん、台ふき、食器などは毎食後ハイター消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 近隣の人にも気軽にきてもらえるように、日ごろからイベントに参加してもらったり、声をかけたり、良い関係ができています。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花をかざったり、食事の時は音楽を流して食事をしている。調理の際の香り、音などで生活感ある環境を作っている。トイレ、浴室等清潔に保ち、におい等不快のないようにしている。 (外部評価) 共用空間の家具は各ユニットでそれぞれの状況に応じたものを使い、利用者が過ごしやすい空間となるよう工夫している。利用者の手作りによる大きくて見やすいカレンダーを掲げている。また、共用部分の所々に季節が感じられるような花や装飾品をさりげなく飾っている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホール、居室に思い、思いに使用し過ごしている。疲れた時、一人になりたい時、戻れるよう、所々に椅子を置いている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の使っていた物、好みの物を自分で思うように使ってもらっている。壁に絵を張ってもらったり、自分の思うように環境を工夫する支援をしている。 (外部評価) 利用者がそれぞれ家庭で使用していた馴染みの家具や愛用品を置き、本人に合わせたその人らしい部屋づくりがなされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 入居者の状況に応じて温度調節を行っている。空気清浄機をとりつけたり、換気にも努めている。加湿器を冬場は使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 全室・ホール・バリアフリーになっている。共有部分には手すりが付いている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレ・浴室など混乱しないように大きく紙に書いて貼っている。カレンダーも大きいものを一緒に作り、わかりやすくしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇や畑があり、入居者、御家族が散歩など楽しまれている。外気浴できる空間があり、楽しまれている。	※	野菜の収穫ができるため、入居者も一緒に畑にとりにいけるようにしたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	職員にも力量の差があるので、情報を共有しながら意向を確認できるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食後などホールのソファをゆったり利用されている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれの意向を確認しているので、それぞれの生活のペースが保たれている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者は職員の支援を自然に受け入れてくださる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出かけたがりと思っているが、出かけて不安になり、すぐに戻りたがる方もいる。遠い外出でなく、外気浴や他のユニットへのお小遣い程度が丁度よい方もおられる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	病院に入院しているよりも「せと」で支援を受けている方が、生き生きとした表情である。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	穏やかな表情で判断できる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ちょっとしたことでも相談して下さる。一人の職員で対応できない場合でも他の職員や主治医に相談して支援してもらっている。それによって不安が解消されている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	御家族の面会がほとんどであるが、デイサービスからなじみの方が訪問して下さることもある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	「せと」が言うならまあ協力しなきゃいけないなあと思ってくださる。地元の方が増えてきた。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	理由はさまざまだが、ストレスがたまっている人が多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行きたい所へ行けない不満があるのではと思うこともあるが、御家族の協力もあり、おおむね満足されている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族会等の参加率も高く、ホームを一緒に支えてくださっている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

地域にしっかり根付いた事業所として互いに協力している。できるだけ最期まで元気に暮らしてほしいと願う職員は入居者の変化をしっかり読み取り、安心してケアを受けられる思う。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームせと

(ユニット名)

すみれ

記入者(管理者)

氏名

黒田ひとみ

評価完了日

平成 20 年 7 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域の中で、その人らしく暮らせるよう支えていくサービスを理念としてあげている。 (外部評価) 「明るく 楽しく 穏やかに」という理念は、職員で話し合っってつくったホーム独自の理念で、地域密着を基本方針として運営に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 入職時に理念の説明をし、理解してもらうようにしている。入り口に理念を掲示したり、実践に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 理念は基本方針と共に各ユニットに明示し、誰でも見ることができるようになってきている。管理者及び職員は会議等で理念の共有を深め、利用者の方々の暮らしを支えている。	※	再確認の為に、日々の申し送りやカンファレンスの時に話し合い、実践に向けて取り組む。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会の時に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所で出会う人には挨拶をし、地域の行事にも積極的に参加するようにしている。せとでの行事にも声がけをし参加して頂けるようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊りや運動会などの地域行事に参加したり、地元の人々との交流を図っている。 (外部評価) ホームは自治会に加入しており、ホームの利用者が運動会、盆踊り、夏祭り等地域の行事に参加し、地域住民がホーム行事に参加するなど、双方向で良好な関係を築いている。また、利用者の友人の来訪、職場体験や実習生、ボランティアの受け入れも行うことで、地域との連携を図っている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の会合や研修などに参加し意見交換している。又、災害時の避難所として提供するよう話し合っている。	※	地域の方の意見を聞き、暮らしに役立つものを、今後も見つけていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価をスタッフ全員で行なっている。外部評価の結果もふまえて、改善計画書を作成し、各ユニットで実践に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を十分理解しており、自己評価も全員で取り組み、振り返りを行うことで気づきを得ている。外部評価の結果は全員で共有し、改善計画を立ててサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では必ず意見を交換し、その結果を職員にも報告している。改善点があれば話し合い、サービスの向上に活かすようにしている。 (外部評価) 運営推進会議は利用者及び家族、地域住民、地域包括支援センター職員、市担当者などの出席を得て開催している。日時等は可能な限り出席者の希望に合わせることで多くの出席が得られるよう配慮している。会議内容は、ホーム側が研修会や行事、外部評価、避難訓練の報告等を行い、地域からは地域情報等を提供してもらうなど、相互の報告や意見交換を行っている。	※	現在はホームや地域の報告などが主な内容となっているが、認知症の理解や介護等に関する勉強会の開催など、地域の方が気軽に参加できるような内容での開催も検討し、さらに活発な会議となることを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 包括の方との連携を取っており、サービスの質の向上に取り組んでいる。市役所職員の研修の受け入れをしている。又サービス上、気になる事を直接、市長村に相談している。 (外部評価) ホームの運営で気になることや不明な点等について密に連絡を取りながら相談している。また、ホームで市職員の研修も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についてのファイルを作成し、各自で学んでもらうようにしている。今のところ、必要性のある入所者は居ない為、活用までには、いたっていない。	※	ファイルを作成しているものの、理解できていない職員もいる為、学習の機会を頻回につくる。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルを作成し、虐待のない介護をするよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に十分な説明を行い、理解してもらっている。不安・疑問点を尋ね、理解、納得してもらえるよう説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見を伝えられない入居者も居るので、本人の言葉や態度から読み取る努力をし家族からも変化はないか、聞くようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 暮らしぶりや健康状態、お小遣いの残高を月1回の手紙で家族に報告している。面会時などにも日々の状況を話すようにしている。 <hr/> (外部評価) 毎月の利用者の状況に関する記録のほか、ホーム便りを発行して家族に郵送している。利用者の状態に応じては、電話連絡することもある。また、家族の来訪時には金銭出納帳の確認をいただいている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や面会時に意見を聞くようにし、それらの意見を話し合い運営に反映させている。 <hr/> (外部評価) 家族の来訪時や運営推進会議、家族会等で十分意見を聞くよう心がけている。また、重要事項説明書等にホーム及び公的な苦情申立先を明記することで、家族からの苦情や意見が出やすい環境を整えている。家族から寄せられた意見はカンファレンス等で職員全員で共有し、適切な対応ができるよう努めている。	※	より意見の言いやすい環境・関係作りに努めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 話しやすい関係作りが出来ており、カンファレンス等で意見交換している。個別面談をし、意見や提案などを聞く機会を設けている。	※	個別面談をこれからも行い、意見・提案を聞く機会を作る。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 変化や要望に対応できるよう職員を確保している。又話し合って勤務調整している。	※	スタッフに余裕が出来るよう勤務調整をし、より柔軟な対応が出来るようにしたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの職員で支援するようにしているが、職員の離職が多い。異動はやむを得ない場合にのみし入居者へのダメージを防いでいる。 (外部評価) 職員の異動は最小限に抑えるよう努力しており、また普段からユニット間の職員の交流も行い、利用者に不安を与えないよう配慮している。	※	職員の離職を減らすよう努めていく。又魅力ある職場作りを職員が一丸となって考えていく。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員のレベルに応じて研修に参加してもらっている。所内研修を充実させ、全職員が参加できるようにする。 (外部評価) 管理者が職員それぞれに応じた研修への参加を促しているほか、職員自らが希望する研修にも積極的に参加できる体制を整えている。研修後は報告書を作成し、会議などで共有している。	※ ※	所内研修の回数をもっと増やして、全職員が参加できるよう計画していきたい。 重度や終末期のケアも行っているので、内部研修の充実、外部研修への参加促進により更なるサービスの質の向上を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) GH連絡協議会に入っており、研修などへの参加で、他のGHとの交流を持ち、サービスの質の向上に努めている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入して他のホームと交流を図っている。他ホームと相互に研修会や行事に参加し合ったり情報交換するなどして、サービスの質の向上に努めている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 気分転換できる機会を作り、ストレス軽減に努めているが、うまくいかない事もある。	※	ストレスが軽減する為の工夫や環境作りに取り組んでいく。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自であげた目標や勤務状況から、個々の努力や実績を把握するよう努める。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前に困っている事、不安な事、求めている事を聴き、それらを受けとめるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族が求めている事を細かく聴き、事業所で何処まで対応できるかを話し、受けとめる努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) その時、その時の状況を把握し、必要な支援・サービスを見極める努力をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 御家族に協力してもらい、本人の馴染みのある物を持参してもらっている。場の雰囲気に馴染めるよう入居者の方にも話しかけてもらったりしている。 (外部評価) 病院や施設から直接ホームに入居するケースもあるが、そのような場合でも職員が事前に本人の所を訪問し、ホームの説明や本人の生活歴の把握を行っている。また、ホームに利用者と家族に来てもらって過ごすこともあり、一日も早くホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 昔の話や、料理・行事の事等を教えてもらう事で、支えあう関係作りを行なっている。 (外部評価) 利用者の豊かな人生経験の話を聞いたり、調理や歌など得意分野を教えてもらうことで、お互い支えあう関係を築くよう努めている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事の手伝いをお願いしたり、本人の昔の事を教えてもらったり、又御家族の思いも共有し、本人を支えていく関係を築いている。	※	御家族が面会に来られた時には積極的に話す場を持ち、より良い関係作りを築いていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と御家族との関係を理解し、行事への参加などに過ごす機会を作り、より良い関係が築けるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話、手紙、面会など自由にしてもらい、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 皆で過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場を作っている。他の入居者の食器を片付けたりと助け合える関係が出来ている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他の施設に入居する時は、情報交換をし、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人に希望や意向を聞き、把握に努めている。困難な場合は御家族に聞くなどしている。 (外部評価) 本人から話を聞いたり、表情や行動を観察して意向を汲み取るほか、家族の来訪時にも話を聞いて把握するよう努めている。把握した情報はケアカンファレンス等で話し合い、日々の支援に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事業所独自のフェイスシートを作成し、家族にも記入してもらい、生活歴などの把握に努める。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを把握し、その人のペースで生活出来るよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や御家族の意見を反映させ、職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。 (外部評価) 本人や家族の希望を聞いたり、担当職員の気づきや意見も取り入れて話し合いを行い、一人ひとりの状態に合わせた介護計画を作成し、家族にも説明している。また、日々の申し送りは専用のファイルで整理し、確実に伝わるようにしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じて見直ししている。状態に変化があった場合は、その都度、検討し現状に合わせた新しいプランを作成している。又ケアプランチェック表を作成してもれないように工夫している。 (外部評価) 定期的に見直しを行い評価するほか、チェック表を作成し、1か月毎にカンファレンスで介護計画のチェックを行っている。状態に変化があればその都度話し合いを行い、新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子など細かく個別に記録している。分かりやすく色分けして記録し、ケアプランの見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院時の送迎等、要望に応じ、支援している。 (外部評価) かかりつけ医の受診支援は原則職員が行っているが、対応できない場合には利用者の許可を得て介護タクシーを利用することもある。看護師の資格を持つ職員も多く、また、母体である医療機関とも連携を密にし、医療支援体制の充実を図っている。部屋に空きがあれば短期入所も受け入れるほか、家族の宿泊も可能となっている。	※	家族の望みが伝えやすい環境作りをしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 警察、消防、学校等、協力が得られるよう働きかけ支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて、話し合いが出来るよう支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、協働するよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や御家族の希望を大切にし、受診を行なっている。かかりつけ医との関係も密にし情報交換をしている。 (外部評価) 協力医療機関をかかりつけ医としている利用者も多いが、本人や家族の希望に合わせて協力医療機関以外の受診も支援している。受診には職員が付き添うことが多く、一人ひとりの状態を把握できている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症に詳しい医師の研修会に参加するなどし、学習、相談等している。必要に応じて受診するなどしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 各ユニットに看護職員を配置し、日々の健康管理や医療活用の支援が出来るようにしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には情報交換を行い、安心して過ごせるよう支援している。医療機関との連携を密にし、早期退院に努める。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合の指針を入居時に説明している。必要な状態に応じて職員と話し合い支援するようにしている。重度化した場合には、その都度、御家族に状況を説明し話し合うようにしている。 (外部評価) 重度化や終末期のケアに関する対応の指針を定めており、入居時には必ず説明を行うほか、本人及び家族の希望も聞いている。また、利用者の状況が変わればその都度話し合いを持っている。これまでに終末期のケアを経験したこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 御家族、職員で話し合い「出来ること・出来ないこと」を見極め、安心して終末期を迎えられるよう支援している。医療機関との連携を密にし、急変時の対応に努めている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他へ移る時は、これまでの生活などを詳しく記入し、情報交換を行なっている。又移った後も分からない事があれば、その都度、情報を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の取り扱いについては、契約書を取り、気をつけている。声がけなど気をつけているが、時々強い口調になっている事がある。 (外部評価) 職員の言葉かけは穏やかであり、プライバシーを損なわないよう、一人ひとりの状況に合わせて対応している。言葉かけで気になるようなことがあれば互いに注意し合い、改善に取り組むようにしている。個人情報については各ユニットで保管し、適切な取り扱いに努めている。	※	声がけや対応など、ゆとりを持ってできるよう努力していく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人に合わせた声がけをし、意思表示のできない入所者は表情などで読み取るよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースに合わせて過ごせるよう支援している。 (外部評価) 職員は、一人ひとりのペースに合わせて、その日の本人の希望に沿って支援するよう努めている。利用者は自分の好きなことを自分のペースで思い思いにしながら、日々の生活を送っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望に応じて支援している。出張美容師に来てもらい支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入所者と職員と一緒に食事をしている。出来る入所者には、一緒に準備、片付けを行なってもらっている。 (外部評価) 利用者に食事の準備や片付けなど、できることを手伝ってもらっている。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら食事をし、介助が必要な方には横に座り、さりげなくサポートしている。利用者が自力で食べることを大切にしており、時間がかかってもやさしく見守り、それぞれの力を最大限に発揮できるよう配慮している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の好きな物など家族に持って来てもらっている。タバコやお酒などは預かり、危険のないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりに合わせた排泄ができるようパターンを把握し支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望にあわせて入浴してもらっている。 (外部評価) チェック表を作成し、利用者の入浴状況を把握している。リフトを利用したり、職員2人で入浴を介助するなどして利用者一人ひとりのニーズや状態に応じた入浴支援を行っている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣や状況に応じて休息が取れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴を把握し、一人ひとりに合わせた役割を持ってもらうよう支援している。 (外部評価) 利用者は農作業や掃除、洗濯を手伝うほか、碁や編み物、カラオケ、歌、踊りなど、それぞれの役割や趣味を楽しみ、また地域やホームの行事に参加するなど楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望に応じて所持してもらっている。その場合は、御家族の了承を得て、高額にならないようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩やドライブなど外出支援は行なっているが、一人ひとりのその日の希望に沿うのは難しい。 (外部評価) 買い物などの希望に応じて外出を支援している。その他、季節に応じて畑で農作業をしたり、花に水をやったり、天気の良い日には利用者と一緒に外に出て洗濯物を干すなど、できるだけ戸外に出て外気に触れられるよう配慮している。	※	一人ひとりの希望に沿うことができるよう、職員の人員に余裕をもたせたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行きたい所を訴える入所者もいるが、個々の身体状況に合わせて外出支援行なっている。	※	御家族にも協力してもらえよう働きかける。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたり、手紙を出したりと支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問でき、居心地良く過ごせるような雰囲気作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束のないケアに取り組んでいる。やむ得ない場合は医師、家族と相談し、同意書をかわし、必要最小限にするように努める。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアに取り組んでいるが、やむ得ない場合は家族にも理解してもらい、夜間・早朝に鍵をかけることがある。 (外部評価) 利用者の自由な暮らしを支えるため日中は鍵はかけておらず、近所の方や家族が気軽に訪ねて来られるよう配慮しているが、利用者の中には外出の傾向がある方も居るため、職員は見守りには細心の注意を払っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ホールには常に職員が配置され見守りを行い、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じて使える物は使ってもらい、職員が見守り、危険のないようにしている		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態を把握し日々の申し送りなどで事故防止に努めている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応や応急手当など研修を行い、対応出来るようにしている。	※	今後も的確な対応ができるように、定期的に学習していく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行なっている。防災トークや地域の会合などに参加し協力が得られるよう働きかける。 (外部評価) 消防署の協力を得て、定期的に地域住民と一緒に避難訓練を行っている。また、夜間に抜き打ちで緊急連絡及び召集訓練も行っている。その他、地域の自主防災会にも加入しているほか、消防署で実施している防災トークにも参加している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 起こり得るリスクについて面会時などに御家族へ話すようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の状態を把握し早期発見に努める。気付いた時は、速やかにNs、Drへ報告し、対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作り、一人ひとりが服薬できているかを分かりやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事・水分量に気をつけ、把握している。食事・水分量の少ない人は、別の摂取方法を施行するなど工夫している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分量は毎日記録に残している。一人ひとりの状態に応じた摂取方法で支援している。 (外部評価) 利用者の食事、水分摂取量を細かく記載している。現在、食事制限が必要な利用者はいないが、必要がある場合には医療機関で栄養指導を受けるなどして配慮している。献立は利用者の希望を聞きながら、栄養のバランスに気をつけて作成しており、利用者の状態に合わせて粥食や刻み食などを用意している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成しており、取り組んでいる。ハイター消毒にて感染予防に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所用品等は、ハイター消毒をし、衛生管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花壇に花を植えたりと、親しみやすい環境にしている。門にユニットの明示がしてあり、出入りしやすいよう工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、居心地よく過ごせる工夫をしている。季節を感じる事の出来る、カレンダー作りをしている。 (外部評価) 共用空間の家具は各ユニットでそれぞれの状況に応じたものを使い、利用者が過ごしやすい空間となるよう工夫している。利用者の手作りによる大きくて見やすいカレンダーを掲げている。また、共用部分の所々に季節が感じられるような花や装飾品をさりげなく飾っている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールにはテレビやソファがあり、一人ひとりが思い思いに過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの物を持って来てもらい居心地よく過ごせるよう工夫している。 (外部評価) 利用者がそれぞれ家庭で使用していた馴染みの家具や愛用品を置き、本人に合わせたその人らしい部屋づくりがなされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 入居者の状況に応じて温度調節をしている。窓を開けて換気も行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホールには手すりがあり、バリアフリーになっているので身体機能を活かした安全な生活が送れている。又必要な箇所に手すりを増やしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室、トイレ、浴室など混乱しないよう表示している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇や畑があり、花を摘んだり、収穫をしたりと楽しんでもらっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	カンファレンス等で入所者の思いを話合ったりしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある 4 ほとんどない	職員は日々見えにくい業務に追われる時が多いが、入所者と過ごす時は「ゆったり」を心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入所者の自己決定を促す場面が多く見られる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入所者と職員の笑顔が交わされるシーンを大切にしている。しかし、入所者の生きがいを見つける事が困難な場合もある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々で自由にという訳にはいかないが、敷地内であれば自由に出来る。希望を聞いて外出を心がけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康面、医療面での相談支援者・体制が出来ている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々に要望を聞き、出来るだけ実現できるよう支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	来所時に近況を伝えて、よく相談している。不安な点を家族が職員に言いやすいよう配慮している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	時折、友人や近所の方が来所される。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の関係作りには日々努力しており、地元の方との関係作りにより、協力を得られている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は命を預かる仕事であり、日々の不安を感じている。その中で緊張して仕事をしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	在宅で家族との生活を夢見る方もおられるが、ここが生活の場として満足し落ち着く方もおられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	数人の家族だけでは支援できない部分や医療面のサポートに安心されている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・開放感のある居心地のいい生活環境の提供と地域から必要とされる事業所を目指して日々実践している。
- ・地域の方と一緒に防災や行事参加に取り組んでいる。